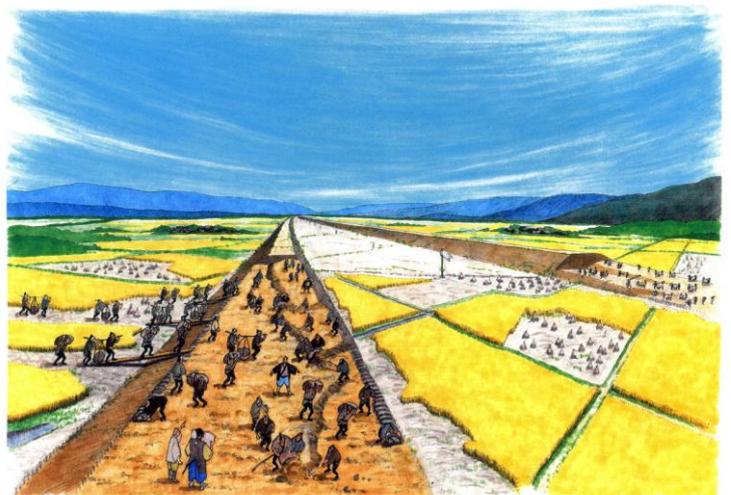


協会ニュース 大和川付替え300年に想う

1	2018年(平成30年)	6月号(253)	木村義穂	大和川付替え300年に想う 前編
2	2018年(平成30年)	7月号(254)	木村義穂	大和川付替え300年に想う 中編
3	2018年(平成30年)	8月号(255)	木村義穂	大和川付替え300年に想う 後編
4	2018年(平成30年)	9月号(256)	田辺謙二	大和川付替え300年に想う 番外編



《特集》大和川付け替え300年に想う！

【木村 義穂】

現在、堺市と大阪市の境界線になっている大和川はおよそ300年前に付け替えられたものです。これは堺の歴史を紹介させていただく者ならば常識中の常識なのですが、付け替えを行った背景や工事内容や予想通りの成果が得られたのか等、振り返ってみましょう。

《河内平野の地形》

- ・河内平野は、北は淀川、南は羽曳野丘陵、西は上町台地、東は生駒山地に囲まれ、古代から内湖を形成するような低地帯が多く、勾配は東から西へ、南から北へ緩やかに下っている。
- ・付け替え前の大和川は笠置山地の都祁（ツゲ）村の高原を一つの水源として奈良盆地の多くの水を集めた後、生駒山地と金剛山地の狭間である「亀の瀬」を経て、大阪側に流れ込み、河内平野に入った大和川は石川と合流したあと玉櫛川や久宝寺川（長瀬川）に分流し、やがては大阪城の北で淀川に合流していた。
- ・河内平野の北部は土地の傾斜も緩く、かつて湖だった所で淀川へスムーズに流れ込めない。
- ・雨が降り続き水かさが増すと溢れやすい上に、江戸時代に入ってから過去の戦乱の復興などに大量の材木を必要とし、上流で伐採されたため、保水機能が弱くなり土砂が流れ、下流では天井川状態で一層洪水が発生しやすくなっていて、度々の水害に悩まされていた。

《川違え運動と反対運動》

- ・幕府は川底浚渫や堤嵩上げなど施策を講じるも成果無く、地域の農民から大和川と淀川を切り離す事で根本的な解決案（大和川の付け替え）が出てきた。付け替え運動は明暦3年1657頃から表面化している。その中心となったのが今米村（現東大阪市）の中甚兵衛たちだった。
- ・付け替えを望んだのは川筋や池に接する東成、茨田、讃良、河内、若江、渋川、高安、大泉の八郡で、理由は従来からある田畑（本田）の改善や新田開発による地域経済の発展と、幕府の収入増に有効なことである。
- ・阻止しようとしたのは、付け替え予定案を示された新川用地に該当する村々と大和川に権利を持つ舟運業界で、次のような理由で反対運動を起こした。（促進派と反対派 図-1）「先祖伝来の田地が川底となる百姓は生活できない」が主たる理由でしたが他にも以下の反対理由があった。

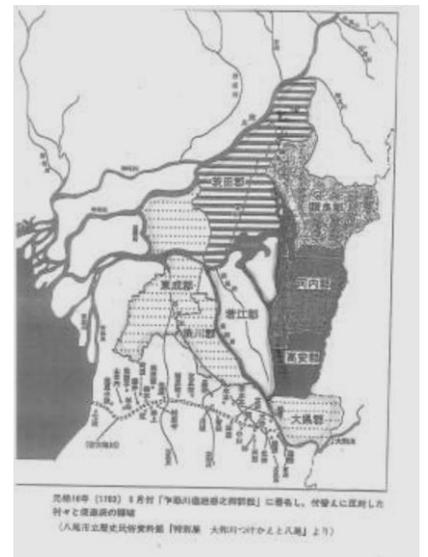


図-1

- 河内国は南が高い地形なので、地形にそぐわない横川となり、大雨が降ると南側は悪水が出る。
- 北側は旧川に水が行かなくなるので、用水不足になる。
- 東高野街道から紀州街道まで主要な街道が6筋も通っているが、分断され不便になる。
- 大阪から柏原までの舟運業は剣先船が通れなくなり、仕事にならない。

- ・付け替え促進派が大阪奉行所を通じて願い出れば、反対派は迷惑だと嘆願する。この繰り返しが約50年間続いた。その間幕府は河村瑞賢らに命じて治水工事を行ったが、元禄14年(1701)本年貢全面免除の村がでるほどの水害が発生し、元禄16年(1703)遂に幕府も付け替えを決断した。付け替え工事検討の担当者は大阪代官所の堤奉行万年長十郎で、中甚兵衛らから意見を聞き、工事に加わる

ように命じた。甚兵衛は嘆願のため19歳から16年も江戸に滞在した。

《工事施工》

- ・公儀普請として目付大久保陣兵衛忠香、奉行伏見主水爲信。助役として姫路藩本多中務大輔忠國によるお手伝普請の形をとった。上流舟橋村から川辺村までの5.7kmは公儀、そこから下流は姫路藩（15万石）とされ宝永元年（1704）2月27日着手された。姫路藩は河口から始めたが、3月21日藩主が死去し、工事が中断。4月1日新たに岸和田藩（5.3万石）三田藩（3.6万石）明石藩（6万石）が指名され姫路藩予定分8.6kmから1.1kmを差し引いた7.5kmを3藩の大名が2.5kmずつ分担することになった。（施工分担 図-2）

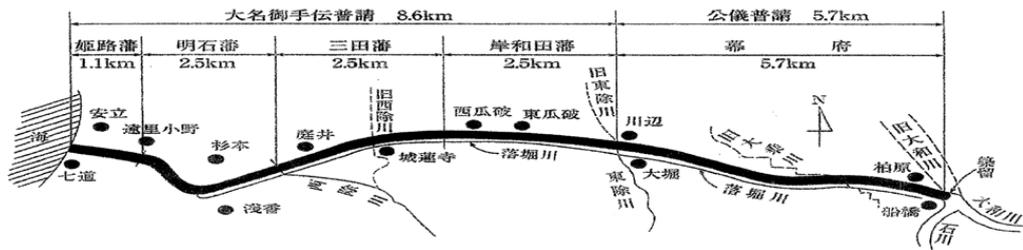


図 5.3.6 新大和川施工分担図

図-2

- ・工事は4月下旬に再開されたが6月28日になって付帯工事と姫路藩の未施工の工事を行うために新たに高取藩（2.5万石）と柏原藩（2万石）がお手伝大名として追加された。
- ・9月には新大和川で唯一の橋である大和橋が架けられ、10月13日に新川通しが行われ、完成した。

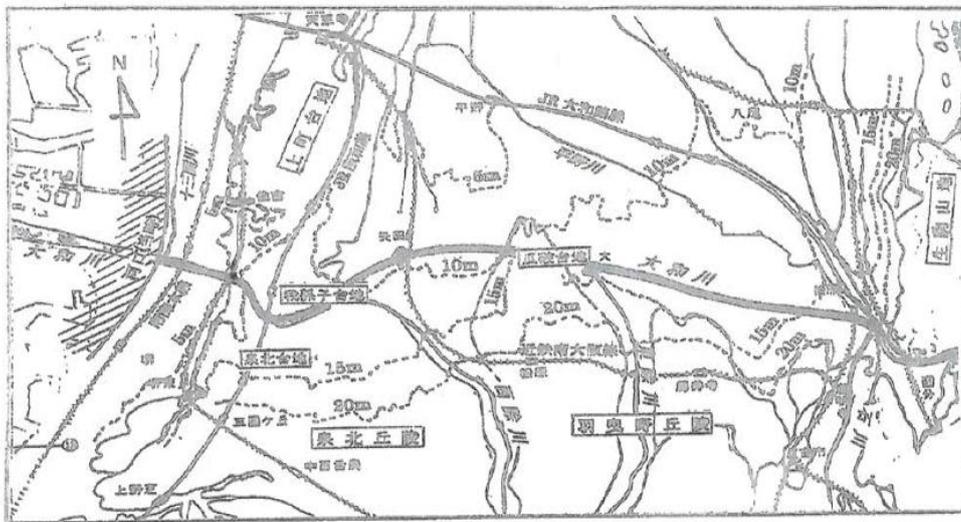


図 5.3.2 新川と等高線

図-3

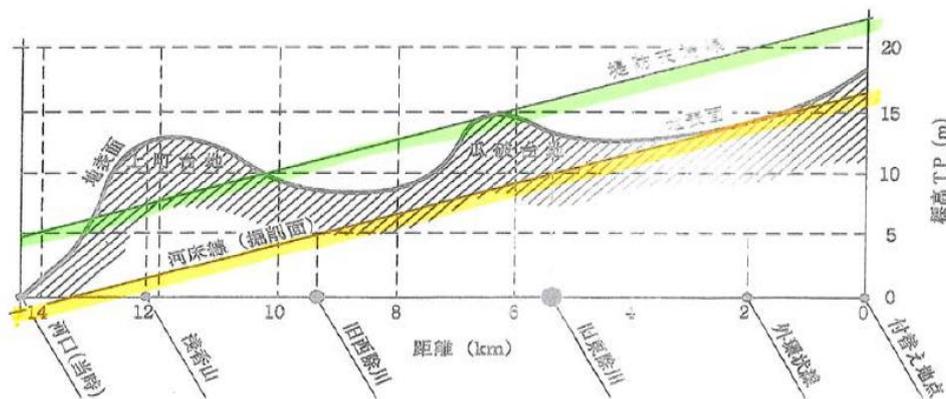


図 5.3.3 地盤高と新川の縦断面

鍬初めから数えて224日(7ヶ月半)のことであった。(姫路藩は3年要すると考えていた)

- ・工事に要した人数は延べ約245万人、費用は幕府が約37千両、諸大名が34千両負担した。現在の価格に換算すると、1両20万円で142億円。245万人に日当1万円と考えれば245億円となる。
- ・幕府の負担した費用は、後の新田地代収入でそっくり補填された。

《工事設計内容》

- ・新川のルートとして四つの計画案が残されており、大別すると柏原から西北にとり東住吉から西か南西に向かうコースと、柏原から瓜破台地の北を迂回し依網池を通過して浅香の浦に向かうものであり、後者が実施案となった。
- ・勾配は地盤高と新川の縦断面で分かるように付け替え点の標高16mから距離14kmの間で標高0m以下にするには約1000分の1となる。
- ・堤防は堤防天端線より高い所(瓜破台地と上町台地の2ヶ所5.5km)は掘削し、低い所3ヶ所(8.8km)は盛土をした。(新川の等高線と縦断面図 前頁図-3)
- ・川幅は従来の大和川の流水断面積を参考にして100間(180m)
- ・堤防は当初(後年嵩上げした)右岸(北堤)高さ3間(5.4m)馬踏3間(5.4m)堤敷15間(27.3m)。左岸(南堤)高さ2間半(4.5m)馬踏2間半(4.5m)堤敷12間半(22.5m)とされた。

これは新川の地形が南高北低となっていることと流路が北方向へ曲がり右岸に強い水勢が当たるため。

・川底は河床線に添って掘削した。掘削断面は川幅100間にわたって均一に掘られた

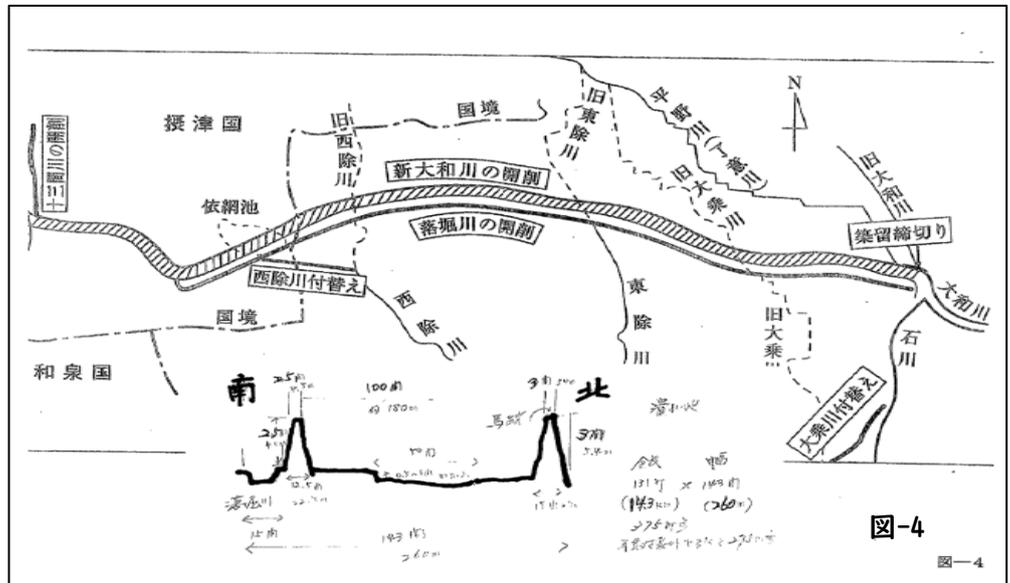


図-4

図-4

のではなく、中央部の50間が0.5~1間の深さに掘削された。(付替え施工位置と横断面 図-4)

《付帯工事》

- ・横川となる新大和川によって左岸地域から北流していた河川や水路が、すべて遮断されることに成り、水損場が発生する恐れがあった。この対策として新川左岸の堤防下に南部地域からの悪水を受ける排水路「悪水落シ堀」が設けられた。上流の船橋村から下流の浅香山谷口に至る121町(13.2km)川幅15間(27.3m)の落堀川である。
- ・新川と交差する河川のうち、大乘川と西除川が付け替えられた。西除川は直線状に北流していたが新川との合流点での水準が合わず、水位によって流れが阻害されるために途中から西の方向へ切り替えられ、落堀川にはいって浅香山谷口で新川へ合流された。
- ・平成の大改修では、常磐町2丁で合流する様に改修され、不要になった西除川に阪神高速大和川線が造られている。昭和61年(1986)から足かけ16年の歳月と総事業費447億円をかけて平成13年3月に完了した。
- ・新川によって在来の用水路が遮断されることになり、用水の取水形態が大きく変化した。旧水系の

久宝寺川と玉櫛川には用水路が設けられたほか、新川堤防には新たに左岸に 23 カ所、右岸に 39 カ所の用水路が設けられた。

最後は「付け替え工事による明暗」「付け替えによる影響」に分けて紹介します。

≪付け替え工事による明暗≫

- ・旧川筋では千年以上も悩まされてきた洪水から解放された。莫大な洪水対策費用を押さえると共に年貢増につながった。その後開発された新田の規模は新川による潰れ地の 4 倍近くになった。新田の主要産物は木綿で、河内一帯は日本有数の綿の産地となった。そして紡績業や運輸業が盛んになり、今日の大阪の発展の契機となった。
- ・一方反対派の唱えた懸念はほとんど全てが現実のものとなった。
- ・潰れ地となった地はいずれも農地として優良田であったが、代替地として与えられたのは旧川床や池床であり砂地で稲作には不向きであった。そのうえ支給された代替地が新川で分断された地の場合、舟で往来したり、旧大和川筋の土地を代替地に支給された場合など耕作に行くのに半日を費やしたりの不便さから手放さざるを得なかった。
- ・手放された土地の開発権を手に入れたのは豪商たちで、その代表的なのが鴻池新田である。
- ・新川の南側では落堀川を掘り、西除川を付け替え工夫したが大雨が降り続けると水害が発生した。
- ・新川の北側では用水源が極端に減ったので、39 カ所の用水路を設けるも早魃の被害を受けるようになった。
- ・大阪、大和間の荷物運搬船である剣先舟は旧川筋では運航が不能となり、村々の小さな井路船が通うだけとなった。

≪付け替えによる影響≫

- ・新川が運ぶ大量の土砂は堺にとって新たな洪水の発生と港の埋没衰退化を引き起こす一方で新田、新地が誕生した。
- ・享保 13 年（1728）の谷善右衛門による修復工事、寛政 7 年（1795）の吉川俵右衛門の計画による戎島南側への港の移転工事や、更に沖合へと進んだ弘化 2 年（1845）と安政 2 年（1855）の大改修が行われた。
- ・土砂はその後も河口まで運ばれ海の潮流も手伝って堺港に影響を及ぼした。
- ・南島、松屋、山本、平田、弥三次郎、塩浜、若松の 7 つの新田が明治 22 年に付け替え後、河口部に土砂がたまったことで新田と化し、港は浅くなり衰退。
- ・遠里小野や七道は潰れ地がでた上に、領土が分断された。（堺市遠里小野町と大阪市住吉区遠里小野に）
- ・五箇荘地域も分断。北花田、奥、大豆塚、船堂、浅香山は堺に、杉本、我孫子、苅田、庭井が大阪側になった。
- ・国境が変更された。大小路で摂津国と和泉国に分かれていたのが、明治 4 年（1871）の国境変更で、新川の南側は摂津国から和泉国大鳥郡に転属になった。

参考文献

- ・大和川付け替えと流域の変遷西田一彦監修古今書院・大和川つけかえと八尾
- ・フォーラム堺学第九集中九兵衛好幸氏講演録「堺と大和川の付け替え工事」

《特集》 大和川付替え300年に想う！ 番外編

【田辺 謙二】

今回の番外編では、特に後編部分を検証すべく現在の和歌山周辺を散策してみました。

西除川と大和川の分岐点中編には、「新大和川と交差する河川のうち、大乗川と西除川が付け替えられたと記載されています。「西除川は直線状に北流していたが新川との合流点での水準が合わず、水位によって流れが阻害されるために途中から西の方向へ切り替えられ、落堀川に入って水準が合う浅香山谷口で新川へ合流された。また、平成の大改修では、常磐町2丁で合流する様に改修され、不要になった西除川に阪神高速大和川線が造られている」とあります。

昭和61年(1986)から足かけ16年の歳月と総事業費447億円もかけられた大工事だったとのことですが、写

真はその西除川と新大和川の合流地点です。新大和川が付替えられた後も、こうしていくつかの課題解消のために多くの労力がかけられたことがよく分ります。

尚、河川の管理区分がこの地点で分けられているのも面白いところです。新大和川によって村落が分離大和川付替えによる影響の一つとして、それまで共同生活を営んでいた村落が川によって南北に分断された結果、舟を使って農作業などに向かわざるを得なくなり生活に大きな不便が生じるようになったことが挙げられます。そして、新大和川の南側(現堺市)と北側(現大阪市)で似通った町名になってしまいましたが、類似の名前が残っている場所として、浅香、瓜破(ウリウリ)、遠里小野(オノ)

などがああります。このうち、新大和川に架かる遠里小野橋を府道30号線に沿って堺から大阪に北上すると、写真にあるように、「堺市堺区遠里小野町(左)」と「大阪市住吉区遠里小野(右)」の町名表示板が目につきます。しかも、堺市側は例の目無しの「〇〇丁目」であり、大阪市側は「目」の付いた「××丁目」になっているなど、村落が分断され、南と北でそれぞれ新しい町名になったことが一目瞭然です。

車社会の現代ならばいざ知らず、川の付替え直後は橋が少なく向こう岸まで舟を漕いで

渡らざるを得ず、その煩わしさを思いますと、行政の指図のままに強制的に生活基盤を変更させられた庶民の我慢強さに感心させられます。土砂の堆積による新田の開発生活の不便さを惹起した新大和川ですが、反面、新川が新たな土砂を大和の方から持ち込んで多くの新しい土地を産み出し、その新田から収穫できた作物によって得られた金銭は新大和川建設に要した費用を早々に賄ってなお余りあるほどだったとのこと。しかし新田は肥沃な土地とは言えず、綿花等の限定的な作物しか得られなかったようですが、このことが逆に河内木綿の一大生産地として堺の名を広く知らしめた結果、大坂や江戸といった大きな消費地に影響力を与える経済圏を作り上げたと言えます。



浅香・落堀川と新大和川の合流点法人



右の写真は大阪市住之江区の加賀屋緑地にある加賀屋新田会所跡の扁額「古見堂（温故知新の意）」が架かる冠木門（カギノ）です。鴻池新田、中新田、そして加賀屋新田に会所跡が残っていますが、ここ加賀屋新田は新大和川の河口部に堆積した土砂でできた干潟を、豪商加賀屋甚兵衛などが干拓して得た新田の一つであり、新田の経営拠点として会所を設けたようです。

商家の別宅でもあり、文人墨客が集まるサロンでもあり、美しい庭園や茶室が作られた、と案内パンフレットには記されています。大阪市の指定史跡（有形文化財）の加賀屋緑地には我々の同胞でもある「住之江のまち案内ボランティアの会」のメンバーが常駐しており、懇切丁寧に大和川や新田開発の歴史話を聞かせて貰えます。

是非、拝観させていただきます。一方、堆積土砂は堺の港を大型船が近寄れないほどの浅瀬の港に変えてしまい、海運業や漁業にとって大きな痛手を与えたのですが、しかし他方で、重化学コンビナートの立地にとってプラスに作用したことも事実です。まさに「人間（ジンゴ）万事塞翁が馬」と言えましょう。

